

# 博友会 だより

Hakuyukai - Dayori  
医療・看護・介護を通して  
地域に貢献いたします

春 [No.9]  
2011年4月



福寿草

## 内科医と精神科医の連携で 治療効果と生活の質の向上を

医療法人社団博友会 北の峰病院 精神科 門田 智則 医師

医療法人社団博友会は5つの施設で社会貢献しています



**平岸病院**  
精神科・神経科・内科  
神経内科・歯科・訪問看護  
赤平市平岸新光町2丁目1番地  
TEL: 0125-38-8331



**北の峰病院**  
精神科・神経科  
富良野市中御料2062番地  
TEL: 0167-22-2011



**介護老人保健施設博寿苑**  
入所・短期入所  
通所リハビリテーション  
赤平市平岸新光町2丁目4番地  
TEL: 0125-37-2001



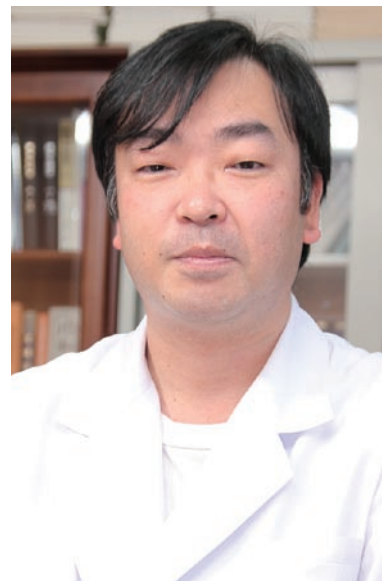
**平岸クリニック**  
精神科・神経科・心療内科・内科  
リハビリテーション科・デイケア・ナイトケア  
赤平市平岸新光町1丁目1番地  
TEL: 0125-38-8393



**共同生活援助事業所グループホーム博友荘**  
入居による生活援助  
赤平市平岸新光町4丁目34番地  
TEL: 0125-37-2077

# 内科医と 精神科医の連携で 治療効果と生活の質の向上を

認知症患者さんも高齢になると、肺炎や腸閉塞といった合併症のリスクが高まります。医療法人社団博友会では、内科医と精神科医が連携して、内科的疾患の予防や治療を行っています。



## 適切な治療・予防と 栄養管理

認知症患者さんの中には痛みや不快感があつても、きちんと認識できなかったり、正確に伝えることができなかったりする人も少なくありません。当法人では、内科医と精神科医が連携して、一人ひとりの患者さんと向き合い、コミュニケーションを図りながら、内科的疾患の予防や治療を行っています。

その中でも、特に大切にしているのは、「栄養摂取」です。栄養のバランスが崩れた身体では、どんなに良い治療を行っても、その効果も限られたものになります。患者さんの病状や栄養状態をしっかり把握し、適切に栄養管理することによって、治療効果と生活の質の向上を目指します。

## ●病状に合わせた栄養の摂取方法

### 口から食べることができる場合

#### ▶ 経口摂取

口で噛む、味を感じる、見た目やにおいを楽しむなど、食べる行為は「人間が生きるための根源的な動作」です。心の安定にもつながり、消化器官を使うことが免疫力を向上させます。できる限り口から食べることができるよう、口腔ケアにも力を入れています。

### 飲み込む力が低下した場合

#### ▶ 胃ろう

飲み込む力が弱ると食べ物の一部が気管に入り、肺炎を起こしやすくなります。そこで、簡単な手術でお腹の皮膚から胃までを管でつなぎ、栄養剤を注入します。消化器官を使い、自然に近い形で栄養摂取ができます。

### 消化管を通して栄養摂取ができない場合

#### ▶ 中心静脈栄養法

心臓に近い、太くて血液量が多い血管までカテーテルを入れて、必要なエネルギーや栄養素などを投与します。弱った消化器官への負担を軽減できます。



認知症の患者さんが、  
食事で笑顔になることもあります

医療法人社団博友会  
北の峰病院 精神科

## 門田 智則 医師

昭和45年 東京都生まれ  
平成11年 旭川医科大学卒業  
平成11年 旭川医科大学付属病院第3内科  
平成12年 公立芽室病院内科  
平成13年 富良野協会病院内科  
平成19年 北の峰病院精神科

日本内科学会認定医

## 北の峰病院 ナースステーションが 拡充しました



平成22年9月にナースステーションの増築工事が完了しました。今までのナースステーションに約50㎡の部屋が隣接し、多職種が集まるカンファレンスも広々とした空間で行えるようになりました。



# 医療従事者を目指す 皆さんへ 奨学資金 支援制度で 夢を実現

医療法人社団博友会では、将来、当法人で医療従事者として活躍する人材の育成を図るため、「奨学資金支援制度」を設けています。資格取得後は、奨学資金受給期間と同じ期間、当法人の医療施設に就労することが定められます（2年間受給した場合は2年間の就労）。その場合、奨学金の返還は免除されます。

実際にこの制度を利用して資格を取得し、当法人で働いている3人の職員に、制度について語ってもらいました。

お問い合わせ

法人事務局

☎ 0125 (38) 8331



**看護師** 勤続10年  
石川 文彦 (45歳)  
滝川市出身

工業高校卒業後、電気ボイラー設備の仕事に就く。27歳で看護助手に。29歳で准看護師の資格を取得。31歳で「奨学資金支援制度」を利用し、室蘭の看護学校へ進学。正看護師資格取得後、平岸病院看護部勤務。平成14年より看護部長。

**妻**の入院で男性看護師の存在を知りたい」と看護の道へ。当時は子どもが2人いましたので、看護助手として働きながら、准看護師の資格を取得しました。

正看護師になりたいと考えていたときに、奨学資金支援制度を知り、迷うことなく申し込みました。支援制度のおかげで、生活に困ることなく正看護師の国家試験に合格できました。看護師の仕事にやりがいを感じています。休日は、妻と3人の子とも賑やかに楽しく過ごしています。

**営業**時代は、契約と売り上げが最優先される毎日でしたが、今は、「人と人とのふれあい」を大切にしながら仕事をしています。遣り甲斐を感じる仕事に出会わせてくれた友人と支援制度に心から感謝しています。

**作業療法士** 勤続3年  
横山 和幸 (33歳)  
赤平市出身

東京で大学の商学部を卒業後、札幌の不動産会社の営業職に。平岸病院リハビリテーション科に理学療法士として勤務する高校時代の友人から「奨学資金支援制度」を聞き、すぐに申し込み、千歳の専門学校作業療法士科へ進学。国家試験合格後、平岸病院精神科に勤務。



**精**神科の入院患者さんは優しい人が多いです。新米看護師の私を「気がないね。大丈夫？」「頑張っているね」と声をかけてくれます。一日も早く患者さんに頼りにされるベテラン看護師になりたいと思っています。

**看護師** 勤続1年  
藤山 志保 (26歳)  
滝川市出身

臨床検査技師専門学校1年生の時に入院したことがきっかけで、看護助手に。准看護師を目指していたときに、博友会で介護福祉士をしていた兄から「奨学資金支援制度」を聞き、制度を利用。平岸病院看護部に勤務しながら、週3回旭川の看護学校へ通い、25歳で正看護師の資格を取得。



## これまでの実績 (昭和45年ころ制度開始)

資格取得延人数	180人
職種	看護師、准看護師、臨床検査技師、作業療法士など
就学先	旭川市医師会看護専門学校、その他札幌・旭川・小樽・帯広・伊達・美唄・稚内など各地の医療関係学校
現在までの支援資金総額	約1億円
平成22年の就学者数	38人



## 白衣と作業衣が並ぶ院長室

### 作業着に着替えて院内の工事現場へ

私が院長に就任したのは昭和38年。院長室の壁には、白衣と並んで作業着が掛かっていました。医学の道へ進む前に、電話や電気を設置する仕事に就いていた私は、簡単な設備工事の技術は身につけていました。



改築工事の様子は8mmフィルムで撮影し、映像に残しました（写真は、カメラを手にする私です）

院内で何か工事が必要になると、白

衣を作業着に着替え、男性職員や患者さんと一緒に汗を流しました。職業や立場を越えて「赤平で一緒に生きていく仲間同士」となっていた私たちは、不便を自分たちの手で少しずつ解消しながら、毎日を暮らしていたのです。

### 10年間で総病床数82から351へ

「木造2階建てのボロ病院を、燃えない病院にしたい」と、医療金融公庫から4200万円をようやく借り、悲願だった病院不燃化工事を10年計画でスタートさせました。

昭和41年11月、「耐火構造による閉鎖病棟」が完成。詰所から2つの病棟廊下が見渡せる斬新な病棟で、道内各地から多くの見学者が訪れました。今振り返ると「刑務所的発想」であり、今も「過去の恥部」として私を悩ませていきます。唯一良かったと思えるのは、病棟の入り口に半透明の厚いアクリルの電動ドアを設置し、正面の詰所から開閉できるようにしたことでした。

工事期間は4期7年で、昭和47年6月に地下1階、地上4階の近代的な新館が完成。工事前に82床だった平岸病院は351床となり、道内で有数の規模の精神病院になりました。【続く】

## 地域ネット

自然映像クリエイター  
としても活躍中

平岸病院 情報管理室  
川村伸司

### 自然映像で 多くの人の心を癒したい

平成12年から平岸病院に勤務し、病院イベントの撮影や掲示物の作成などの業務を担当しています。

自然映像を撮るようになったのは、札幌から赤平に住まいを移した翌年から。ニユース映像で愛らしいナキウサ

ギの姿を見て、「自然に恵まれた北海道に住んでいるのに、自分は何も知らない」と感じたことがきっかけです。休日には約7キロのビデオカメラ機材を背負い、春はエゾフクロウの幼鳥、夏はナキウサギ、秋はエゾオコシヨなどを撮影するために、道央・道東の山々を巡ります。

通い続けて撮影した野生動物の様子や四季折々の美しい自然を多くの人にってもらいたいと、ホームページで動画を公開し、3年前からユーチューブにアップ。世界各地から160万を越えるアクセスがあり、テレビや雑誌の取材も入るようになりました。

また、病院の娯楽室で、赤平のエルム森林公園で撮影したエゾフクロウの幼鳥の映像を上映したところ、患者さんが喜んで見てくれて、嬉しかったですね。自然映像は「人間の心を癒すパワー」があると思っています。これからも撮り続けます。



これまでに撮影したさまざまな自然の動画を見ることができます

癒しの空間 北の森



赤平市民の有志で制作した映画「0からのRE-スタート〜あの火を未来へ〜」では、撮影・編集を担当しました